

かなん タウンミーティング 2012
第1部 かなんの成長戦略 議事録(要旨)

第1部 かなんの成長戦略

①「行政課題への取り組み状況」の説明

- ・マニフェストでお約束した71の項目について、任期の2年を終えての達成状況をお示しした資料で、これもトレンドの行政の見える化の一つです。住民の皆さんご自身でご評価をいただきたい。
- ・あと2年ですべての項目が達成できるように頑張っていきたい。

②「南河内地区市町村の各小学校児童数・学級数について」及び「児童数予測」の説明

- ・南河内には81の小学校があります。その中で、河南町の小学校は児童数では下の方であり、最も多い近つ飛鳥小学校でも56番目、河内、白木、中村小学校は更に低い位置にあります。
- ・平成30年には、白木小学校の児童数は80人、中村小学校も108人となります。このような児童数の減少の問題に加えて、平成27年には白木小学校の1年生は10人で、そのうち男の子が1人、中村小学校でも平成30年に1年生が10人で、そのうち女の子が1人になります。このいびつな状態は6年間続きますので、教育上非常に心配されます。
- ・最終的に小学校をクラス替えもできる適正規模の2校にしたい。北部で近つ飛鳥小学校の統合を実施しましたが、南部でも3校を1校とし、子どもたちが切磋琢磨できる環境にしたいと願っています。

③「タウンミーティング説明資料」の説明

これまでの取り組み

～第四次総合計画～

- ・現在、平成22年から概ね10年をスパンとする第四次総合計画を組んで行政の根幹としています。人口減、高齢化、少子化に我がまちも向かっています。人口減に立ち向かい、将来の人口をどれくらいに置くかも議論して計画はできています。

～子育て・教育環境整備～

- ・日本は人口減社会に突入しています。総務省によると、2035年に府内で人口が増加するのは、田尻町しかありません。子育て・教育は非常に大事です。若者の定着・流入を図るキーワードの一つですが、言うは易し行うは難し。本町では、子育て・教育の障害となる子どもたちの減少に早くから着眼し、地元の大変な協力もいただき、次

世代の子どもたちのため、近つ飛鳥小学校に統合しました。おかげで石川小学校の跡地には石川保育園というすばらしい保育園ができ、待機児童が一気に解消しました。今では0～5歳の子どもたちが、にぎやかに来ています。統合では、地域の火が消えないように、跡地をどう利用するかも大きな問題です。

- ・子どもは学校で多くの時間を過ごします。学び舎の耐震化は非常に大事です。小学校の耐震化は計画的・年次的にすべて完了しました。中学校は第二体育館の建て替えで完了し、保育園の一部が済むと教育・子育て施設は100%となります。

～機能的な役場づくり～

- ・保育園と幼稚園を一緒に取り組むための課として、こども1ばん課を作りました。国では、厚生労働省と文部科学省の縦割りですが、本町では保育に欠ける、欠けないに関わらず誰でも預かる認定こども園を視野に、組織を先に作りました。
- ・また、子育てと教育の機能を一本化してまとめた教・育部を1階に配置し、ワンストップサービスを実現しました。教育委員会と一般行政を分けているところが多く、他では見られません。住民の皆さんとの距離が近くなったと感じています。

～防犯・防災力強化～

- ・安全・安心には、自然災害からの安全、交通事故からの安全、犯罪からの安全など、色々な要素があります。「暮らして安心・安全、住んで良かったと思えるまちづくり」と、どこも同じことをいいますが、実現は難しい。町では、地域の安全は住民の皆さんと二人三脚でやっています。防災力の強化に頑張ってください、自らの身を守り、近所のお年寄りを守る自主防災組織も立ち上げていただいています。青パト、見守りなどにより、子どもたちは安心して通学できますが、これも地区の皆さんのお力添えがあってこそ。また、犯罪に対する安全を高めるため、街角防犯カメラの設置も進めています。
- ・女性消防団、ファイアレディを結成。また、子どもたちの犠牲を出さなかった「釜石の奇跡」にならって、子どもたちに防災教育を行うため、ファイアジュニアを結成しました。
- ・備蓄のような災害の備えをしますが、災害がなければ賞味期限などの理由で捨てるというリスクがあります。リスクをできるだけ少なくするため、いざという時に、水、食料、日用品など、大手の小売業の在庫を活用させていただけるよう、防災協定の締結を進めています。

～危険箇所の安全対策～

- ・島川橋はダンプやバスがよく通ります。老朽化に早めに手を打って橋の架け替えを行っています。

～交通～

- ・大阪で電車も高速道路もないのは、能勢町、千早赤阪村に河南町の3つです。公共交通の現状として、通勤・買い物・通院も便利とはいえません。元気な間は車がありますが、高齢化すると自由に行けなくなるので、近い将来公共交通は非常に大事になります。今、通院・買い物など、よい交通の体系ができないか取り組んでいるところです。
- ・さくら坂・鈴美台で1カ月間実験バスを走らせる取り組みを行いました。全国で行政主導の取り組みが行われていますが、大概うまくいっていません。本町では、ご利用される地域の方自らがダイヤを組んで実験バスを走らせる取り組みを支援しました。

～産業活性化～

- ・農業の3つの問題は、遊休農地、後継者不足、ブランド不足。本町では水越米というブランドができましたが、このようなかなんのブランドを通じて、町を有名にしようと考えています。ブランド化により、付加価値を付け、高く売れ、長く愛されるようにしたい。
- ・道の駅かなんは、よく頑張っており、全国的に見ても非常に業績がよい。道の駅かなんが近鉄とのコラボでやっている阿倍野 HOOP 前朝市は、行列ができるほどの人気で大変な売れ行きです。
- ・まちの木はさくらで、西行さんは弘川寺の桜の下でなくなられた。本町と縁が深い桜を使って、まちおこしに取り組んでいます。桜プロジェクトについては、北海道からも勉強に来られた。桜プロジェクトではまちの木さくらを、自然を売り出す町のイメージにぴったりということで、毎年植えています。ゆくゆくは、桜日本一の町をめざして、桜100年プロジェクトにつなげていきたい。また、民間のアイデアで桜グッズを売りだしていただいています。

～環境～

- ・河南町の美しい自然を汚さず、次世代へ残すため、美しい河南町条例を作りました。環境条例、景観条例にも広げていきたい。
- ・弘川寺周辺の里山の保全是近鉄百貨店、平石城址周辺の山の整備は三洋商事（株）のご協力により、アドプトフォレストの取り組みを進めています。
- ・大宝地区公民館の屋根に50枚、マックス9.7Kwの太陽光パネルを設置して公民館の電気を賄い、余った電力は売っています。個人の家への助成も100件ほど進んでいますが、財政を考慮しながら、続けていきたい。

～行財政改革の実行～

- ・ 7年前に町長に就任の際、借金を増やさない、貯金は減らさないと申し上げました。皆さんにご協力、ご辛抱をいただき改革をやってきた結果、そのとおり借金は減ってきましたし、貯金も減らずに維持しています。また、収支についても改革しなければ赤字になるところでしたが、皆さんのご理解・ご協力により黒字になりました。

河南の成長戦略

～人口減少社会と真っ向勝負～

- ・ 本町でも 17,545 人をピークに少しずつ人口が減少していきます。総合計画を策定する際に人口フレームを問題としましたが、人口減を想定すると公共施設やサービスの縮小など色々な関わりがあり、18,000 人という目標を決めて、まちづくりを行っています。
- ・ 人口減を食い止める、ましてや増やすのは至難の業ですが、これからの大きなテーマです。我々は、次世代に何を残すかが問われています。子育て・教育環境を整えて、安心して産み育てられる河南町をつくる、町内どこでも安全にする、財政的にもしっかりしていることを明らかにしていきます。町は生活しやすいと思ってもらえることで、人が定着し、よそから移り住んでもらえます。

～子育て・教育～

- ・ 教育施設の耐震化はよそに先駆けて実施しており、間もなく完了します。現在、中学校体育館の整備を進めています。中学校給食は長く望まれてきましたが、平成 26 年 9 月にオープンするため、鋭意準備を進めています。
- ・ 現在、幼稚園 2 つ、保育園 2 つ、小学校 4 つ、中学校 1 つですが、幼保一体の認定こども園を作り、最終的には、こども園 2 つ、小学校 2 つ、中学校 1 つという子育て・教育環境を子どもたちのためにつくってあげたい。
- ・ 英語教育に力をいれたい。できれば小学校に入るまでに英検 2 級くらいとれるようにしたい。
- ・ 中 1 ギャップや小 1 プロブレムについて、幼小中の連携を図っていきたい。
- ・ 医療費助成では、小学校修了まで通院助成を実施していますが、中学校修了までの無料化について、財政と相談しながらできる限り早くやっていきたい。
- ・ 現在、0 歳児からの教育の制度はありません。生まれたら、妊娠したら教育という仕組み作りを頑張ろうと思っています。

～町域の安全・安心～

- ・ 教育施設の耐震化の次は、集会所 3 つ、それから水道施設の耐震化を進めたい。大災

害時に水が3日持つように、タンクと配管が持つようにするのが課題です。

- ・通学路の安全対策、ため池の安全対策、急傾斜地の安全、橋梁の長寿命化に取り組んでいきます。
- ・定年した方が、地域の役に立ちたい、防災の役に立ちたいと思っても、40歳の年齢制限で消防団に入ることができません。そうした方の活躍のためにファイアシニアという組織を作りたい。
- ・民間事業者等との防災協定の締結は、どんどん進んでいるが、今後、自治体間でも広域的に応援協定を結んでいきます。自治体間の応援協定は、南海地震を想定し、太平洋岸で結ぶのではなく、山陰、東北、沖縄、九州などクロスした形で協定を結べるよう、進めています。
- ・道は「命の道」、大切であると、国をあげて見直されています。国道309号河南赤阪バイパスの工事がスタートし、平成20年代に開通の見込みです。山城バイパスも、なんとしても開通の道筋をつけたい。柏駒線の歩道設置についても実現できるよう頑張ります。
- ・亀岡市の集団登校事故以来、文部科学省、国土交通省、警察庁が3つ巴で通学路の安全対策を進めていますが、スクールゾーンに限らず町内すべて時速30kmにしたい。子どもだけでなく、高齢者も安心ですし、舗装が傷まず、財政にもプラスになります。警察との調整も必要ですが、工夫してやりたい。ぜひご協力をお願いしたい。

～持続可能な社会～

- ・公共交通では、住民の皆さんが主体となって、さくら坂・鈴美台で実験バスが1カ月間走りました。今、その結果を評価中ですが、高齢化が進むと自由に通院や買い物にも行けなくなります。よい交通体系ができないか検討を進めていきます。
- ・美しい河南町の自然を守るため、美しい河南町条例を制定し取り組んでいます。環境条例、景観条例の二つの条例を作っていきたい。不法投棄等も罰則で縛る。景観は塀など身の回りの制約もあり、住民の皆さんの協力も必要です。
- ・防犯灯のLED化はかなり進めていただき、既に30%ほど進んでいます。あと2年ほどで100%にしたい。
- ・大阪芸大は非常に大きな財産です。この芸大との包括協定の締結に向け、ワーキンググループの立ち上げを検討しています。芸大とのパートナーシップを発展させていけば、よそとは違う特色を出していけます。
- ・現在、協働のまちづくり条例の制定をめざして、住民の皆さんとまちづくり懇話会を開催しています。住民のみなさんがまちづくりの主役で、みなさんから色々なアイデアや意見をいただき、一緒にやっていくことが大事です。今日開催しているタウンミーティングも1つですし、モニター制度もあればいい。
- ・さくらプロジェクトは全国から注目を集めています。願わくば1年1,000本、100年

で10万本のさくらの植樹を継続し、日本一の桜の町にしたい。

～私の夢 道里移夢～

- ・紀伊半島横断道、関空から伊勢湾まで通じる高規格道路の建設を平成19年頃から近隣、奈良、国交省などに働きかける活動を行っています。河南町は大阪で電車も高速道路もない2町1村の1つで、景色はいいが不便です。命の道の実現、河南町を通る高速ができれば、人口減にも効果があります。また、近鉄にも電車を通してくれるよう、年に4回も5回もお願いしています。あきらめずにやっていきたい。
- ・河南町のカナちゃんの頭は、金山古墳の双円墳をイメージしています。町の歴史から生まれたこの子を使って、アピールしていきたい。
- ・やることは色々ありますが、何もかもできません。選択と集中で取り組んでいきます。そして、誇り高き、笑顔あふれる河南町をめざして頑張っていきます。皆様のご協力が欠かせませんので、よろしくお願いいたします。